

だんじり会館のあり方等検討委員会 議事概要

審議会名 第4回だんじり会館のあり方等検討委員会
日時 2025（令和7）年1月27日（月）13:30~15:30
会場 伊賀市役所本庁舎 会議室 201
出席者 【委員】
小林慶太郎委員長 福田良彦副委員長 後藤渡委員 菊野善久委員
中村晶宣委員 重藤邦子委員 山口真由子委員
【伊賀市/事務局】
産業振興部長 堀川敬二
観光戦略課長 山田靖子 同課主幹兼誘客推進係長 辻本康文
同課主幹兼事業係長 川合理恵
欠席者 【伊賀市/事務局】
産業振興部次長 福山朋宏
傍聴者数 3人
.....

1 開会あいさつ

小林委員長

2 確認・報告事項

(1) 第3回までの共通認識の確認

(2) 委員会からの宿題に関する調査報告

(事務局) — 資料の説明 —

資料1・資料1-1・資料1-2

(小林委員長) 前回までの共通認識の確認と、前回、委員から依頼した宿題について説明してもらった。何か質問はあるか。

(委員) 意見無し

3 協議事項

(1) あるべき姿（目指す方向性）に関する更なる議論

(小林委員長) これまで議論してきた「あるべき姿（目指す方向性）」に関して追加や修正などがあれば、発言をいただきたい。前回欠席された中村委員から何かご意見はあるか。

(中村委員) 中間答申に向けて、考えを巡らせている。祭りやだんじり会館の話になると必ず町の長老といわれる人が色々な主張をする。意見は言うが、そういう人は実際に動くことは少ない。会館のあり方の検討に関しては、長老の意見は排除して

も良いと考えている。なぜなら、コロナの間、祭りが廃れてしまうのではないかと危惧していたが、そういう中でも、だんじりの入替は継続することができた。特にコロナ後、通常開催に戻った 2023~2024 年よりもコロナ禍の 2020~2022 年のほうが、だんじり会館に沢山の曳き手や協力者が集まってくれた。今それを振り返ると、鬼町も含め、心の拠り所になっていたのではないか。そういう意味ではだんじり会館の存在意義があった。祭りを残したい、続けていきたいという気持ちのある若者がだんじり会館に集まってくれた。そのとき長老は一步引いて見ただけだった。

また、もう一つの心配点はお囃子の継承であった。コロナでお囃子の稽古が出来なくなり大変だと思っていたとき、30~40 歳代のお囃子の中心になる若者たちが、夏の暑い時でも稽古をしていた。若者たちの力でコロナ後も祭りが復活していけたと思う。去年、文化会館で行われた、伊賀市の市制 20 周年セレモニーの際、その時に集まった若い人に働きかけて混合チームをつくり、お囃子の演奏をした。子供たちを連れてきた女性や囃子をしている子供の親も集まってくれた。これから、それらの人達に働きかけていきたい。そして、それらの人達の意見を集約して、中間答申までに自身の考えをまとめたい。長老たちには保存会会長である私から責任をもって説得していこうと思っている。

(小林委員長) 中村委員から、これから祭りを担っていただく若い方や、お囃子の中心になっている 30~40 歳代の方、囃子手の子供たち、囃子手の子供たちを連れている女性たちの声も聴きながら、祭りをどうやって継承していくかを考えたい。また、それらの人達の意見を聞き、だんじり会館のあり方を考えてくると良いという意見をいただいた。

今の話から、想い入れのある人達はコロナ禍であっても集まり、やるべき時にはやるといった様子がうかがえた。祭り町の人達が自分たちのものとして取り組んでいる様子を、側面から支えていく形が理想ではないかと感じた。

他に意見はいかがか。

(福田副委員長) 中村委員から、コロナの時期は地域の若い人を中心に、危機感を感じながら祭りを運営していたことを聞き、改めてその大切さを実感した。

私からは、意見集約シートについて 2 点意見を述べる。一つは、「来街者」という言葉を使っているが、一方で「来訪者」とも書かれている。「来街者」はあまり聞き慣れないので、「来訪者」に統一した方が良いと思う。もう一つは、テーマ 3 ((有形文化財としての) 保全・保護) で「修理センター(ドック)は、必ずしも必要ない」と書かれている部分についてである。会議の中で、中村委員から長浜市の事例紹介があり、その際、私も修理センターのあり方について確かに話をしたが、それが伊賀市にとって必要かどうか議論をした記憶はない。ましてや、委員会として「修理センターは必要ない」という結論を出した記憶もない。

中間答申も含め、中途半端にこのように書くことは適切ではないので、この部分は無くしてはどうか。これについて、中村委員の考えをお聞きしたい。

(中村委員) 長浜市の曳山会館のように修理スペースがあれば良いと思う。だんじりの屋根を下ろしてするような解体修理では、広いスペースが必要になる。例えば、今秋に解体修理を予定している中町、何年か前の鍛冶町のように、だんじり蔵の前にスペースがあるところは良いが、町によって違う。新町や西町、福居町などは、そのようなスペースが無い。現状でそのような修理が必要になった時にどうすれば良いか分からない。

しかし、原案のままだと祭り町の人から、なぜそうなったのかと言われるので、この部分は保留とし、原案から抜いておいた方が良い。対案は思い浮かばない。

(小林委員長) 修理センターの部分については、前回の会議録に「必ずしも修理センターは必要ない」という意見があったので、このように至ったと思われる。しかし、それを書くとは色々なハレーションがあるのではないかという指摘である。では、どうすればよいか。

(中村委員) 実際、大きな修理をすることはあっても、だんじり会館にわざわざ持って行き、会館の中で修理をするにはコストがかかる。長浜ではそのように使っていると聞いたが、実際にそこで修理しているのは見たことがない。

(小林委員長) そうすると、意見の整理や表現の仕方として、今この段階で修理機能を設けるか否かというのは言い過ぎるところがある。結論を出しにくいのなら、先送りすることになるが、「だんじりの解体修理、維持のあり方については、なお検討が必要だ」という書き方にしてはどうか。

(中村委員) だんじり会館が無い時代でも修理は発生していた。その時代は各町に荷車屋が沢山あったから修理が出来ていた。

(後藤委員) 修理センターの件は、とてもデリケートな問題だと思う。考えを深めるには、だんじり会館が持っている、ソフト面の機能とハード面の機能を明文化(言語化)し、その上で、それぞれの機能を検討していき、他に代替できるものがあるのか否か。代替できないものがあるとすれば、例えば、それに対して何か追加で準備する必要があるのかどうかを考えていくと、ひとつひとつの機能自体は、過不足がなくなるのではないかと感じた。

(小林委員長) だんじり会館が担っている機能を改めて整理するには、どこを確認すればよいか。

(事務局) 根拠になっているのは「だんじり会館条例」の設置目的に規定されている、文化の振興、だんじり文化の保存、管理という部分である。具体的な機能としては、主にだんじり本体、幕も含めて展示をしていることや、それを来館者に映像とともに観覧してもらい、祭り文化を知っていただくという機能になる。そして、現在の指定管理者から来館者に説明を行ったり、アンケートによるニーズ把握は

実施している。しかし、実際のところ、どのような機能があるのか事務局として把握できていない。今後の検討にあたり、ソフトの機能とハードの機能や、会館がこういった役割を担っているのかという部分もしっかりと整理させていただく。

(小林委員長) だんじり会館の大きな目的は、一つは、だんじりの実物を 3 基ずつ展示して見せるということ。それから、祭りの文化とか歴史などを資料、映像を使って知ってもらうこと。ただし、来館者は誰をターゲットにしているか明確ではない。市内の子供なのか、市民なのか。或いは観光客なのか。またそれ以外に、今の指定管理者が土産物の販売や忍者衣装の着替えも行っている。

(後藤委員) 機能を整理するのは難しい。市が提供しているものもある。いつ、誰が、何をの 3 つの観点で整理されると良い。どのような機能があり、それは補填しうるのかを整理してから考えていくべきである。

(小林委員長) 実態として機能が明確に整理できていないというご指摘があった。後藤委員にまとめ方や整理の仕方を相談しながら、その上で、それぞれの機能が今のだんじり会館で、今後担うべきか、他で代替しうるのか。むしろ他でやった方がより効果的なのか。或いは、本来ならこの機能が必要ではないかということなど、機能別にもう少し区分けして議論を深めていくこととしたい。

機能的な部分は整理できていないが、これまで 5 つのテーマで議論をした内容について、中間答申としてまとめていきたい。今までの議論を踏まえて、表現の仕方や、もう少し突っ込んだほうが良いところ、表現が強すぎる場所があればご発言いただきたい。

(中村委員) 有形文化財について、現在、会館に鍛冶町の見送幕が置いてある。金具は貸金庫に保管されている。それらは保全・保管の観点からどうなのか。

(福田副委員長) 幕やだんじり本体は、適切な保存の仕方や温湿度管理がそれぞれ違う。具体的には、幕は光がずっと当たっていれば退色するし、掛けたままにしておくと、中に綿を入れて膨らむように出している部分が垂れてくる。幕を掛けておくのはリスクが伴う。また、だんじり本体についても、組み立てた状態にしておくと荷重がかかっているの、車輪や車軸に影響がある。それに幕が掛かっていれば、余計に重さも増えるので、色々な問題がある。金具についても、金属であるがゆえに湿度調整が必要である。収蔵庫以外の所に保管するのは課題もある。有形文化財の管理については、最適な方法があるので、次の事項で言葉の修正を提案したい。

(小林委員長) だんじり本体、引退幕、金具は、温度・湿度・重力・荷重について管理方法がそれぞれで違うので、適切に文化財を保全・保存していくには、各町の収蔵庫に保管することは適切ではないかも知れないし、だんじり会館で展示しておくのも問題はあるかも知れない。有形文化財の保存の観点から、現在は文化財を

適切に保存できる場所がないということが課題と思われる。

(福田副委員長) 中間答申として公表されるので、この文言が非常に大事かと思う。有形文化財としての保全・保護の部分に、「だんじりや幕それぞれにとって展示方法や温室度管理などが不十分で云々」とあるが、その根拠が示されていない。対案として、「だんじりや幕それぞれにとって適切な展示方法や温室度管理が異なることから、最適な環境のもとで」というような形に変えれば、少し表現は補正されを考える。

もう一点は、「全国の施設も勘案すると、工夫をすれば両立することも可能です。」という記述があるが、全国的に見ても現物を飾っているもので、今言った問題はどの施設にもあると思う。それが、「工夫をすれば両立できる」というのは、適切な表現ではない。また、なお書きの修理センターの部分は、ここに書かないほうが良い。

(2) 中間答申書案の検討

(小林委員長) 中間答申案について協議に入っていきたい。

1 頁は、前市長からの諮問書。2 頁はカガミ文で、これも、諮問事項について慎重に審議をした結果、別紙の通り意見がまとまったので提出すると書かれている。3 頁から丁寧に見ていきたい。

3 頁の「1 中間答申」について内容に過不足があれば、ご意見いただきたい。

(委員) — 異論無し —

(小林委員長) 大枠の部分は良いが、各論の部分は色々な意見が出てくるのかもしれない。

次に4 頁「2 検討の経緯」について、内容に過不足はないか。

(委員) — 異論無し —

(小林委員長) 次に5 頁の「3 議論の概要と主要な意見」にうつる。

はじめに、(1)「文化」か「観光」についていかがか。

(菊野委員) 資料1-2には、岸和田だんじり会館や城端曳山会館における行事や施設に対する考え方が、「観光メインというよりは祭りの伝統を伝承することに重きを置いている。」「観光というよりは、地域の人に知っていただくことを第一義に」と明確に書かれている。それに比べると、ここの表現が弱い。人によって解釈の相違がある表現は避けるべき。我々の意見は、基本的に、文化に軸足を置くという見解であったので、そこははっきりしておいた方が良い。

(小林委員長) どのように修正すればよいか。

(福田副委員長) 「元来～」の文脈では、もう少し「文化」が第一義であることが示せると良い。そして「負担感」という言葉は違和感がある。例えば「労苦」など、別の言葉に変えた方が良い。

(中村委員) 「元来～考えます」まで一文になっているので、途中で区切るべき。また、

「お裾分け」という言葉は、ニュアンスは分かるのだが、事務局で適切な表現に修正してもらいたい。

(小林委員長) 具体的にどのように修正すべきか。

(後藤委員) 文化と観光の関係性は、文化の上に観光が成り立ち、全く別のものではないという解釈から、このような文脈になったと推察する。この部分は、「まずは文化があって」ということを強調すべき。例えば、「町の人々が第一義に恩恵を受けるものだ」と言い切り、そのあと、「一方で」もしくは「その上で」と記載すれば、もう少し見やすくなると思う。

(小林委員長) 一案を述べる。「元来、ダンジリ行事は祭り町の人々が自らの文化を受け継ぎ、楽しむことで成り立っており、祭り町の人々が第一に恩恵を受けるものです。このことを踏まえ、祭りの伝承を第一義に、その文化の上に観光が成り立つよう、ダンジリ行事の魅力を広く地域の内外に伝え、地域全体として祭りを支えていくべきと考えます。」はいかがか。あくまでも、文化や祭りの伝承が第一義で、その上に観光が成り立つように魅力を伝えるといった文脈に整理していただきたい。

(菊野委員) 1行目の「だんじり文化を保存・継承し、観光客向けに地域文化をどう見せるか」とあるが、「観光客向け」の表現は必要なのだろうか。結局、この答申の最後の方に出てくるのは、「地域の人に」、「小中学生に」という文脈なので、「観光客向け」の文言は割愛してはどうか。

(小林委員長) 3頁の全体総括で、「市民や市外来訪者」という表現を用いているので、観光客だけではない。観光客に限定せず、どのように保存・継承し、地域文化をどう見せるかという観点で良い。「観光客向けに」は抹消して良いか。

(委員) — 異論無し —

(小林委員長) 続いて、5頁(2)の無形民俗文化財(行事)としての維持・継承についていかがか。

(後藤委員) これまでの議論の内容がまとめられており、違和感はない。持っておくべき観点は、郷土教育はどちらかと言えば市民を対象とした教育のことだが、郷土教育だけではなくて、幅広く議論をしてきたと認識している。

別の事例になるが、例えば、松尾芭蕉に関して、伊賀では学校でたくさん句を詠む取り組みがあると聞いている。それらの文化教育は、子供たちだけではなく、そこに関わる方々に広げていってはどうか。例えば、四日市のあすなろう鉄道では、車内広告として、市民から募集した絵を掲出している。その絵が掲出されれば、その絵を見るためにあすなろう鉄道に乗車する。要するに、だんじり会館の中に、人との繋がりを加味しても良い。6頁の「行事以外の期間」においても、学校教育における郷土教育をはじめ、生涯学習や社会教育を通じて、市民全体や関係人口が、日頃から、有形・無形のだんじり文化に触れ、そ

この担い手の思いに触れることで」というようなことを入れても良いと思う。

(小林委員長) 6 頁の 3 行目に、「文化やその担い手」という文言を足してはどうかという意見だが、その方がより明確になる。お気づきの点があれば。他はどうか。

(菊野委員) 1 行目の「伊賀上野」や「郡部、旧町村」という表現は適切かどうか。「伊賀上野」はどこの地域を指しているのか。

(事務局) 特に祭り町の地域を指している。

(菊野委員) 「伊賀上野」と祭り町は同じではない。修正願いたい。

(福田副委員長) 「地域的な関係性の上で成立」の意味がよく分からない。それともう一つは、「その他（郡部）の住民にとっても自らの生活に対する恩恵があり」とあるが、どんな恩恵があるのか浮かび上がらない。例えば、1 行目は削除し、「ダンジリ行事を市全体で継承することは、祭り町の住民だけではなく、伊賀市を代表する祭りとして、地域の賑わいや楽しみを創出するという意味で意義が存在する」とすれば分かりやすい。

(小林委員長) ここは、上野の町の歴史的な成り立ちからすると、周辺から米を集めて、木津川で運んだという話の中で、祭りも形成されてきたという意見をもとに記載されたと思うが、分かりにくいし、そもそも伊賀上野とはどこまでを指しているのか、旧町村域を郡部と言っていいのかなど問題があるので、副委員長が言われた通り、1 行目を削って、「ダンジリ行事を市全体で継承することは、祭り町の住民だけでなく、伊賀市民全体にとっても地域の賑わいや伝統を継承する上で意義が存在する」という表現でよいかと思うが、いかがか。

(委員) — 異論無し —

続いて、(3) 有形文化財としての保全・保護にうつる。これは先ほど副委員長から、6 行目の「工夫をすれば両立することも可能である」とは考えられない。「なお書き」の 4 行は、表現を改めるべきとご指摘があった。「工夫すれば両立」や「修理センターの話」についてご意見があればいただきたい。それ以外の部分でも結構どうぞ。

(福田副委員長) 「保全」と「活用」は二つに分けてしまい、「その上で、有形文化財の保全方法は、全国の山・鉾・屋台行事に関連する施設の事例からも課題は多いものの、活用については、その魅力を伝えることは重要です。」としてはどうか。

(後藤委員) 「工夫をすれば両立することも可能である」という記載には、こういったメッセージが込められているのか。今の状態がベストな保存方法ではないという意味が含まれているという解釈でよいのか。

(事務局) 委員会の議論の中で、県立博物館における「見せる収蔵庫」の事例が紹介された。保存しながら活用する方策もあるという観点から、この文言を記載している。

(後藤委員) 保存と活用を両立するために何かより良い方法がありそうだという意味だと理解した。例えば、「有形文化財の保全方法に関しては全国の山・鉾・屋台の関連施設の事例なども踏まえ、適切な活用方法を考えていく必要がある」とすればニュアンスが伝わるかどうか、他の委員の意見をうかがいたい。

(小林委員長) 一段落目は、どちらかといえば保全保護の話である。今は最適な環境で行われていないので、最適な環境でやって欲しいが、課題が多いということを言っている。「その上で」の後に「保全と活用を両立」とするのが紛らわしい。

1 段落目は、最初にはっきりと、「有形文化財の保全保護の方法については、文化財保護の観点から云々、課題も多いです。」としておいて、「その上で、活用については、全国の山・鉾・屋台関連施設の事例なども勘案して、検討していくことが必要です。」という内容でいかがか。

(福田副委員長) 今、事務局から県立博物館の話が出た。私からそれを話した記憶はあるが、「見せる収蔵庫」については、どちらかという、化石など硬いもので実際の例が多く、こういった人文系は難しい。

(重藤委員) 幕は、実際に展示するものはレプリカにして、依頼をすれば本物を見られるようにするのはどうか、という話もあったと記憶している。

(小林委員長) そういう具体的なことも含めて検討が必要なのだろう。修理センターについては、「なお、修理センター（ドッグ）機能については、これを求める声もあるものの、他の自治体でも様々な課題が見受けられることなどから、なお慎重な検討が必要と思われます。」とし、必要ないとは言わないけれど、慎重に考えていくというぐらいのニュアンスでいかがか。

(福田副委員長) 事例として紹介されただけなので、「なお書き」は全部要らないと思っている。

(小林委員長) なまじ触れると、変に期待を持たせてしまうなら、削ることとする。他の部分はこれでよいか。

(委員) — 異論無し —

続いて、(4) 文化振興によるまちづくりの全体像にうつる。こちらはいかがか。特に違和感はないか。

(委員) — 異論無し —

(小林委員長) 最後に、(5) 施設の運営（維持管理）、地理的な視点からのあるべき姿にうつる。最後の取りまとめは玉虫色のように感じるが、いかがか。

(後藤委員) 異論はない。これから継続協議しなければいけないので、このぐらいの表現でよい。

(事務局) 「文化振興によるまちづくりの全体像」と「施設の運営（維持管理）、地理的な視点からのあるべき姿」は議論を経て順序を入れ替えたが、いかがか。

(小林委員長) 第2回からこの順序で議論をしてきたので、違和感はない。(5) の表現に

ついては、これでよろしいか。

(委員) — 異論無し —

(小林委員長) 委員の意見を反映させ、中間答申書の確定版を、2月14日を日途に委員に送付する。熟読し、気になる点があれば、今週中に事務局に返信いただきたい。中間答申書の内容は、最終的に委員長に一任していただくということでよろしくをお願いしたい。

また、2月18日火曜日の夕方4時に、市長にこの中間答申書をお渡しする。意見交換の時間を設けてあるとのこと。ご都合がつけば、ぜひ同席いただきたい。基本的に全員同席いただけると嬉しいが、欠席される場合には、前日までに事務局にご連絡をお願いしたい。

(3) 第5回委員会について

(小林委員長) 第5回の委員会は2月25日である。場所はハイトピア伊賀に変更になった。詳細は事務局から説明をお願いしたい。

(事務局) 第5回は二部構成である。第一部では、委員会として中間答申に述べた内容が、だんじり文化に対しての祭り町の考え方や、文化継承の意向に合致しているかなどを確認していただくため、委員会と祭り町の代表者との意見交換を開催する。意見交換の前提条件は、中間答申の内容がベースとするが、祭り町の方たちの意見なども受け止め、中間答申を補完するための情報収集や、最後の調整をする機会としていただきたい。

第二部では、祭り町の関係者は退席していただき、祭り町との意見交換を踏まえ、最終答申の取りまとめに向けて検討を深めていただきたい。

祭り町から出席いただく方は、中村委員に推薦していただくことになっている。意見交換では一定テーマを設けたいと考えているが、今の時点でご意見があればうかがいたい。

(小林委員長) 何か質問はあるか。或いは、当日、祭り町の方々に聞きたいことがあれば、あらかじめ言っていただきたい。

(中村委員) できるだけ、年配者よりも若い人に来てもらおうと考えている。

(小林委員長) 囃子方で中心になっている3～40歳代の方に来ていただきたい。

(後藤委員) 可能であれば、その方々が、学校でどんな授業を受けられた経験があるのか聞いてみたい。

(中村委員) 祭り町に対して聞きたいことがあれば、事務局を通じて、私までお願いしたい。私が推薦し、委員長の名前で出席依頼という流れにしたい。

(小林委員長) 依頼状は事務局で用意してもらいたい。

4 その他

(1) 今後の予定

(小林委員長) 今後の予定は先ほど説明したが、補足があれば事務局からお願いします。

第6回の委員会はどうなるのか。

(事務局) 第6回の委員会は、年度が変わってから開催する予定である。今年度中は次回2月25日をもって、一旦区切りとなる。最終答申は7月を予定しているが、皆さまのご都合に合わせて、もう少し時期を早められればと考えている。

(小林委員長) 先ほど後藤委員から、だんじり会館の機能を整理してほしいという宿題もありますので、それは次回にお願いしたい。また、中間答申の段階では、かなり玉虫色で、結論が出たか、出ていないか、よく分からない部分もあるので、そこをもう少し議論を深めて、一定の方向性が出せる部分はある程度意見集約させて、最終答申に盛り込んでいきたい。

本日はこれで終了する。

以上